

医学系研究科医学専攻カリキュラムマップ

DP	1年次	2年次	3年次	4年次	
専門知識・理解	共通科目（教養科目） 希少糖科学特論				
	【専門科目】 <基礎臨床研究医・生命科学研究者育成コース> ■ライフサイエンス科目群 希少糖の機能、発達神経科学、分子形態学特論、組織細胞科学特論、神経細胞生物学特論、神経生理学、生体分子センサー特論、呼吸循環生理学、循環生理シグナル伝達学、薬理学特論、脂質生物学、酵素学実験法、医用有機化学特論、医用分析化学特論、分子内分泌学、核医学画像解析、毒性病理学、分子神経病理学、免疫組織化学、免疫制御学、寄生虫学特論、衛生動物学特論、微生物ゲノム科学、生活習慣病予防論、臨床疫学、生物統計学、医療管理学、健康危機管理論、国際保健論、法医学特論、医学教育学特論、遺伝情報解析学、疾患ゲノム情報学、生体分子立体構造学、実験動物学・動物遺伝学、糖鎖構造解析、医療情報学 ■トランスレーショナルリサーチ科目群 希少糖と生活習慣病、バイオイメージング技術の開発・応用、中耳・内耳バイオイメージング、形成外科におけるバイオイメージング、細胞シグナル伝達学に基づくトランスレーショナルリサーチ、生活習慣病診断・治療の前臨床開発、iPS細胞の応用、糖鎖情報と臨床応用、発がん機構、免疫機能を調整する薬剤の開発、微生物共生システムと応用、健康測定・アセスメント、医療経済・テクノロジーアセスメント、医療政策論、死因究明技術の開発、タンパク質分子設計、精神神経疾患の創薬科学、イオンチャネル病、臨床アウトカムとしてのQOL評価の応用、臨床アウトカムとしての画像解析システム、睡眠（終夜脳波システム）の臨床開発、認知症診断の技術研究、脂質異常症と心血管病、慢性腎臓病の進展抑制・機序の解明、周産期の脳発達と子供の健康、高速液体クロマトグラフィーの臨床応用、近赤外線分光法を用いた臨床研究、骨軟部腫瘍研究の臨床応用、前立腺がんの新規マーカーの開発、低侵襲手術術式の開発、癌とマイクロRNA、癌と遺伝子異常、がん薬物療法、分子イメージングの臨床応用、放射線医学、動脈硬化症への遺伝子治療、病理診断学の臨床応用、神経保護薬の臨床開発、医工融合による医療機器開発、救急・生体複製制御、臨床栄養・微生物学 <高度医療人育成コース> ■臨床医・メディカルスタッフ養成科目群 希少糖医学、地域医療学、高齢者医療学、医療倫理、生活習慣病学、災害医療・災害医学、神経病学、脳神経外科学、脳卒中特論、運動器病学、精神病学、腎・泌尿器病学、感染症学、血液病学（血液・造血器・リンパ）、免疫・アレルギー疾患学、呼吸器病学（内科学）、呼吸器病学（外科学）、乳腺内分泌外科学、消化器病学（内科学）、消化器病学（外科学）、循環器病学（内科学）、循環器病学（外科学）、母子周産期医学、皮膚病学、眼病学、口腔病学、頭頸部病学、耳鼻咽喉疾患学、核医学、IVR学、痛み学、呼吸循環制御学、小児科学、内分泌代謝学、糖尿病学、救急救命医学、形態機能学、薬学、小児外科学 ■がんプロフェッショナル養成科目群 共通コアカリキュラム 研究方法論応用（がん疫学論、臨床研究論、医療統計学）、悪性腫瘍の管理と治療（検査、診断法概論、治療法概論、治療合併症、支持療法、緩和治療、老年腫瘍学、がんの心理社会的側面）、医療倫理学・医療経済学、医療対話学、がんチーム医療実習、医療情報学（腫瘍学における情報システム） がん専門共通科目 がんのベンチマークサイエンス・臨床薬理学、臨床検査・病理・放射線診断学、臓器別がん治療各論、がん緩和治療 がん専門選択科目 放射線治療法、臨床腫瘍学、放射線腫瘍学				
	研究能力・応用力	共通科目 医科学特論	課題研究		
	社会的責任	共通科目 研究・生命倫理	博士論文		
グローバルマインド	共通科目 医科学概論				

基礎科目
 共通科目

応用科目
 専門科目

統合科目
 研究科目

大学院教養科目

ディプロマ・ポリシーの各項の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。

①専門知識・理解

1年次に配置された共通科目により、医学・生命科学に関する専門知識を理解・修得します。さらに専門科目として1年次から3年次にかけて開講されるライフサイエンス科目群、トランスレーショナルリサーチ科目群、臨床医・メディカルスタッフ養成科目群、がんフロフェッショナル養成科目群により、高度職業人として活躍するために必要な幅広い専門の知識を修得します。

基礎臨床研究医・生命科学研究者育成コースでは、自立して独創的な医学研究を行うのに必要な高度な研究能力と学識を基に、基礎的研究が行える人材を育成します。一方、高度医療人育成コースでは、地域特有の疾患や最新の医学知識を基に、研究志向の医療人や専門医やがん専門職医療人を育成します。

②研究能力・応用力

3年次から4年次には、課題研究が設けられています。課題研究では、課題の設定とその解決のための作業仮説の設定の過程で、絶え間ない探求心と深い思考力や判断力が培われ、更なるその検証、分析結果の解析と考察を経て一定の結論を導き、これから博士論文を英文で作成することを通じて研究能力・専門応用能力・表現力を培います。

③倫理観・社会的責任

医学研究には、高い生命倫理、医学倫理の涵養が要求されます。さらに、医学研究を通じて社会福祉の向上に貢献し、社会的責任を果たせる人材を育成することが求められます。これらを高い次元で両立させるために、1年次共通科目の必須授業科目として「研究・生命倫理」が開設されています。この科目を通じて、研究に必要な倫理教育と生命倫理に関する高い見識を教授し、社会に貢献できる人材を育成します。

④グローバルマインド

博士論文は原則として、英文で発表することが要求されます。そのため、最新の医学・生命科学の知見を得るために、開設された全ての授業科目で英語文献の読解力を養成します。豊かな国際感覚をもち、グローバルな視野に立って独創的な研究活動を遂行し、社会をリードするために、表現・発信能力とスキルを培います。